

横山 博司

下関市立大学経済学部 教授

## 地域住民の自己効力感を利用した限界集落における地域活性化

本研究の目的は、地域社会の住民自らが、とりわけ高齢者がワークショップ等の手法を用いて、地域の問題を解決していく過程を通して、限界集落の活性化を図ることにある。下関市豊北町栗野川地区の地域づくり（夢プラン会議）において、地域住民が自ら夢プランの作成、地域の問題解決を、ワークショップ等を実施することによって行った。

その成果は、コミュニティタクシーの運行の実現や夢プランの作成につながり、地域の人々は、自己効力感を感じることができたと思われる。

調査データからは、自己効力感の変化を明確に示すことはできなかったが、夢プラン会議に参加することへの肯定的評価によって裏付けられている。また、調査データは、地域の問題は自分たちで解決できるという気持ちも示していた。即ち、これらは自己効力感を示しており、地域の問題をすべて行政に頼ることなく自らの手で解決していこうという取り組み自体が、自己効力感の表れといえるだろう。